

基礎学力を高め、危機をチャンスに

花野井 歳弘

(九州産業大学 情報科学部教授)

今、世界は百年に1度の金融危機に見舞われている。これは一昨年から問題となっていたアメリカの「サブプライムローン」問題が引き金となったアメリカ発の金融危機で、瞬く間に世界中の金融業界が巻き込まれた。この恐るべき速度と広がりには過去に例のないもので、いかに今日 IT 技術によるグローバル化が進展しているかが改めて実感される。

日本の金融業界は、バブル崩壊の後の“失われた10年”の経験から本来影響が少なかったはずであったが、貿易特に輸出に依存している製造業主体の日本の産業は大きな影響を受けて連日問題となっている。

この状況は就職を希望する学生諸君にとっても影響が大きい。すなわち、ここ数年売り手市場であった求人が減少傾向であるとされ始めてきている。

しかし、情報科学部の諸君は自信を持って欲しい。エンジニアは不況に強く、**危機はチャンス**である。過去、好況の中、売り手市場で就職した社員は、就職活動は楽であったが就職後に多くの同僚のなかでその能力が問われ、不況になったときに厳しい待遇を受けることになった例が多い。しかしながら、求人が絞られている年に就職した社員は、同僚は少なく好不況に限らず大事にされる。すなわち、買い手市場はチャンスである。また、どちらの場合も、各人の能力がポイントになる。

能力は**基礎学力**がベースになる。就職後、企業による教育も行われるが時間かけた系統的な授業は難しい。学生時代に基礎学力を身に付け就職後の能力の基礎とすることが重要である。

情報科学部では、IT 業界の各職種に対応した特徴のあるカリキュラムを多く用意している。今回、これらのカリキュラムと職業がイメージできる履修モデルを明確にした。これは、情報システムを作るエンジニア（情報システム、組込みシステム、ネットワーク開発エンジニア）から、使う職業（運用管理、セールスエンジニア、コンテンツ分野、教育分野）など**職業がイメージできる履修モデル**により構成されている。

希望職業を決めている諸君はこの履修モデルに沿って授業科目を履修し、必要とされる基礎学力を高められる。また、まだどの職業か決めかねている諸君は、この履修モデルの授業科目を通して自分にあった職業を選ぶことができる。

これらの履修モデルを活用し、基礎学力を高め、危機をチャンスに代え諸君の明るい将来を拓くことを希望する。

